

第43回日本肩関節学会を主催して

望月 由

皆様におかれましては、日頃よりご高配いただきありがとうございますことを心より感謝申し上げます。

昨年2016年10月21日(金)22日(土)の2日間、リーガロイヤルホテル広島において、第43回日本肩関節学会学術集會を開催させていただきました。多くの皆様のご支援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

日本肩関節学会は世界の肩関節学会の中で最も古く歴史のある学会です。前回、広島で日本肩関節学会学術集會が開催されたのは今から35年前に故安達長夫先生(昭和33年 広島大学卒)が広島で開催されて以来です。

本学会のテーマは、「覧故考進 -Regeneration-」とさせていただきます。「覧故考進」とは、先輩の業績を引き継いで、将来の局面を切り開くという意味です。世界の肩関節外科において日本肩関節学会の貢献は目覚ましいものがあります。しかし、日本肩関節学会の先輩方が達成した多くの偉業を知らない若い世代の先生方が徐々に増えてきています。若い世代の先生方に先駆者たちが使命感をもって、創意と工夫を積み重ね、貴重な研究成果に至った経緯、方法論を伝え、今後の発展の礎にする必要があると考えました。そこで、この学会のテーマに沿った「覧故考進セミナー」を6組の先生方をお願いさせていただきました。この「覧故考進セミナー」を通して、日本肩関節学会の先輩方の努力と成果、肩関節外科に対する情熱を若い世代の先生方に継承することができ、また基礎的研究と臨床的研究を融合することで、日本肩関節学会がこれまで以上に世界に貢献できる礎を築く機会にいただければ会長としてこれに勝る喜びはないと考えました。そして、第41回の森澤佳三会長から始められ、第42回の井樋栄二会長に継承された国際化の流れを今回も引き続き進めようと考え、英語セッションを準備しました。世界の情勢はどのようになっているのか「What's going on」のセッションも企画させて

いただきました。昨年2016年4月10日・11日に広島で開催されたG7広島外相会合に続き、5月27日にオバマ大統領が、現職の米国大統領として初めて広島を訪問しました。この歴史的な訪問を機に、多くの方々を広島にお迎えし、戦後71年を経過して被爆から復興再生した広島の世界に伝えることは大変意義深いことです。さらに、医学の分野でも再生-Regeneration-は最新のトピックであります。広島大学学長の越智光夫先生が開発された培養軟骨細胞移植に代表されるように組織再生は今後の医学および医療の永遠の命題であると考えております。そこで、日本肩関節学会としても今後取り組むべき課題と考え、「Regeneration」というテーマを掲げさせていただきました。復興再生した広島から、第43回日本肩関節学会学術集會を通して、「No more war」の平和のメッセージが世界へ発信されれば医学の世界のみならず、全世界へ貢献できると考えさせていただきました。

今回学術集會において会長講演をさせていただきましたが、その中に個人的なメッセージを加えさせていただきました。まず、最初に今年ノーベル賞を受賞された大隅良典教授が述べられたように、他の人と同じことをするのではなく、新しい分野を開拓して、いい意味で歌舞いてほしいということです。そして、スペシャリストになることも大切なのですが、まず人への思いやりをもった心やさしい人になってほしいということです。さらに、肩の分野を通して、多くの同胞のみならず外国の方とも心情や考え方、文化などを共有することができると考えております。それは、肩の分野を通して交流することが、政治や国境を越えられることを意味すると思います。つまり、肩のスペシャリストになることは世界への貢献につながる可能性があるということになります。これが、今回主催させていただいた第43回日本肩関節学会学術集會を通して平和都市広島から世界に向けて送るメッセージです！

最後になりましたが、皆様の今後の益々のご発展を祈念しております。

第43回日本肩関節学会学術集會会長
県立広島病院 整形外科 主任部長

